

2013年(平成25年)11月4日(月曜日)

復興特需、人手不足が深刻

運賃水準は改善傾向に

仙台圏の特積み

【宮城】仙台圏を中心に運賃引き上げの動きが出てきた。東日本大震災復興に関連

条件悪い長尺物を敬遠

仙台市内の特積会社の夕一ミナルには従来の小口貨物に加え、ロール状の荷物を配達する大きな梱包資材、更にはパレット積みみの荷物などで、あふれかえっている。まるで、一般貨物(区域)の配送センターのようだ。



仙台市内の特積事業者はドライバ―不足に頭を抱える

復興関連の特需とともに特積み大手が長尺物や闊大貨物の引き受

した輸送需要に加え、深刻なドライバ―不足で、一部には車両手配が困難な状況が表れている。こうした背景から、復興に伴う土木建設関連輸送に加え、特積事業者の中には、適正運賃収受に向けた荷主交渉が進んでいるようだ。(黒田 秀男)

けをやめたのも貨物量が増えた一因かも知れない。本来、担うべき一般区域の事

需給バランス崩れる

第一貨物(武藤幸規社長、山形市)仙台支社の菅野泰治支社長は「本来は特積に来るはずのない荷物が増えている。引き受け手がいないようだ。ドライバ―不足が要因の一つで、当社も例外ではない」と頭を抱える。

同社仙台東支店(仙台市若林区)のターミナルにも、通常の特積貨物とともに、タイヤ、ホイール、小型建設機械、パレット積みなどの大型梱包材など、長尺物が積み上げられている。一

業者も、より深刻なドライバ―不足に陥り、積載効率の良くない重量500キヤ1トなどの貨物は敬遠され、特積に流れている。

部はトラックの荷台に積まれて留め置き状態だ。ドライバ―不足の中で、こうした荷物の配達は、手間と時間がかかり、場合によっては半日も要する。時間指定を要望する荷主もいるという。同社では、ドライバ―職だけではなく、事務職や管理職も駆り出して急場をしのいでいる。このような状況は他の特積会社も同様で、西濃運輸仙台支店(仙台市若林区)の伊藤豊支店長は「荷物は震災前よりも増えている。

